

『化学職 パーフェクト演習講座 無機化学』(KU12783) 訂正表

2016年02月17日現在

ページ	訂正箇所	訂正内容		掲載日
		誤	正	
P. 8	[No. 10] 問題文 5行目	例えば、アンモニアと <u>3</u> フッ化ホウ素の反応の場合は、 <u>3</u> フッ化ホウ素を \ominus と考えることができる。	例えば、アンモニアと <u>三</u> フッ化ホウ素の反応の場合は、 <u>三</u> フッ化ホウ素を \ominus と考えることができる。	2016/02/17
P. 38	[No. 9] 解説文 3行目	$U(r)' = 4\varepsilon \left\{ -12 \left(\frac{\sigma}{r} \right)^{13} + 6 \left(\frac{\sigma}{r} \right)^7 \right\}$ となる。 $U(r)' = 0$ となる r は、 $-6 \left(\frac{\sigma}{r} \right)^6 \left\{ 2 \left(\frac{\sigma}{r} \right)^6 - 1 \right\} = 0$ $\therefore \left(\frac{\sigma}{r} \right)^6 = \frac{1}{2}$ $\therefore r = \sqrt[6]{2} \sigma$	$U(r)' = 4\varepsilon \left\{ -12 \sigma^{12} \left(\frac{1}{r} \right)^{13} + 6 \sigma^6 \left(\frac{1}{r} \right)^7 \right\}$ となる。 $U(r)' = 0$ となる r は、 $-6 \sigma^6 \left(\frac{1}{r} \right)^{13} \left\{ 2 \sigma^6 - r^6 \right\} = 0$ $\therefore r^6 = 2 \sigma^6$ $\therefore r = \sqrt[6]{2} \sigma$	2016/02/17
P. 42	[No. 21] (3) 解説	(3) 格子の一辺の長さを l 、原子の半径を a とおくと $l^2 + (\sqrt{2}l)^2 = a^2$ $\therefore l = \frac{4\sqrt{3}a}{3}$	(3) 格子の一辺の長さを l 、原子の半径を a とおくと $l^2 + (\sqrt{2}l)^2 = (4a)^2 \Leftrightarrow 3l^2 = 16a^2$ $\therefore l = \frac{4\sqrt{3}a}{3}$	2014/03/20

※「掲載日」は、上掲訂正情報がLECホームページの『公務員 テキスト改訂・修正情報一覧』(<http://www.lec-jp.com/koumuin/kaitei>)に掲載された日付です。